

精神医学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
助教（うち病院籍）	3 人	(1 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	3 人	
医員	3 人	
研修医	3 人	
特任研究員	6 人	
大学院学生（うち他講座から）	1 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	16 人	
合計	40 人	

2 教員の異動状況

森 則夫	(教 授)	(平成 8 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月末日退職)
鈴木勝昭	(准教授)	(平成 25 年 4 月 1 日 ~ 現職)
岩田泰秀	(講 師)	(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 1 月末日退職)
竹林淳和	(講 師)	(平成 23 年 4 月 1 日 ~ 現職)
和久田智靖	(講 師)	(平成 21 年 4 月 1 日 ~ 助教、平成 28 年 2 月 1 日 ~ 現職)
横倉正倫	(助 教)	(平成 24 年 4 月 1 日 ~ 現職)
亀野陽亮	(助 教)	(平成 25 年 4 月 1 日 ~ 現職)
栗田大輔	(助 教)	(平成 23 年 4 月 1 日 ~ 現職)
伊熊正光	(診療助教)	(平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月末日退職)
松尾香弥子	(特任准教授)	(平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月末日退職)
浅川哲也	(特任講師)	(平成 26 年 4 月 1 日 ~ 現職)
高橋太郎	(特任助教)	(平成 26 年 8 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月末日)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	14 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	62.38	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(3) 総説数 (うち邦文のもの)	8 編	(7 編)
そのインパクトファクターの合計	8.80	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	1.63	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Inoue J, Hoshino R, Nojima H, Ishida W and Okamoto N: Additional donepezil treatment for patients with geriatric depression who exhibit cognitive deficit during treatment for depression, *Psychogeriatrics*, 16: 54-61, 2016. [IF:0.988]

インパクトファクターの小計 [0.988]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Takagai S, Tsuchiya KJ*, Itoh H, Kanayama N, Mori N, Takei N: Cohort profile: Hamamatsu Birth Cohort for Mothers and Children (HBC Study), *Int J Epidemiol*, pii:dyy290, 2015. [IF:9.176]

インパクトファクターの小計 [9.176]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Fujioka T, Inohara K, Okamoto Y, Masuya Y, Ishitobi M, Saito DN, Jung M, Arai S, Matsumura Y, Fujisawa TX, Narita K, Suzuki K, Tsuchiya KJ, Mori N, Katayama T, Sato M, Munesue T, Okazawa H, Tomoda A, Wada Y, Kosaka H*: Gazefinder as a clinical supplementary tool for discriminating between autism spectrum disorder and typical development in male adolescents and adults, *Mol Autism*, 7:19, 2016. [IF:5.413]
2. Nishimura T, Takei N*, Tsuchiya KJ, Asano R, Mori N: Identification of neurodevelopmental trajectories in infancy and of risk factors affecting deviant development: a longitudinal birth cohort study, *Int J Epidemiol*, pii:dyy363, 2016. [IF:9.176]
3. Maekawa M, Iwayama Y, Ohnishi T, Toyoshima M, Shimamoto C, Hisano Y, Toyota T, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Takagai S, Yamada K, Ota M, Fukuchi S, Okada Y, Akamatsu W, Tsujii M, Kojima N, Owada Y, Okano H, Mori N, Yoshikawa T*: Investigation of the fatty acid transporter-encoding genes SLC27A3 and SLC27A4 in autism, *Sci Rep*, 5:16239, 2015. [IF:5.578]
4. Yamada K, Hattori E, Iwayama Y, Toyota T, Iwata Y, Suzuki K, Kikuchi M, Hashimoto T, Kanahara N, Mori N, Yoshikawa T*: Population-dependent contribution of the major histocompatibility complex region to schizophrenia susceptibility. *Schizophr Res*, 168:444-449, 2015. [IF:3.923]

5. Liu X, Shimada T, Otowa T, Wu YY, Kawamura Y, Tochigi M, Iwata Y, Umekage T, Toyota T, Maekawa M, Iwayama Y, Suzuki K, Kakiuchi C, Kuwabara H, Kano Y, Nishida H, Sugiyama T, Kato N, Chen CH, Mori N, Yamada K, Yoshikawa T, Kasai K, Tokunaga K, Sasaki T*, Gau SS*: Genome-wide association study of autism spectrum disorder in the east asian populations, *Autism Res*, 9:340-349, 2016. [IF:4.330]

6. Miyaoka T*, Furuya M, Horiguchi J, Wake R, Hashioka S, Thoyama M, Murotani K, Mori N, Minabe Y, Iyo M, Ueno S, Ezoe S, Hoshino S, Seno H: Efficacy and safety of yokukansan in treatment-resistant schizophrenia: a randomized, multicenter, double-blind, placebo-controlled trial, *Evid Based Complement Alternat Med*, 2015:201592, 2015. [IF:1.880]

7. Yamagishi S*, Yamada K, Sawada M, Nakano S, Mori N, Sawamoto K, Sato K: Netrin-5 is highly expressed in neurogenic regions of the adult brain, *Front Cell Neurosci*, 9:146, 2015. [IF:4.289]

8. Shimamoto C, Ohnishi T, Maekawa M, Watanabe A, Ohba H, Arai R, Iwayama Y, Hisano Y, Toyota T, Toyoshima M, Suzuki K, Shirayama Y, Nakamura K, Mori N, Owada Y, Kobayashi T, Yoshikawa T*: Functional characterization of FABP3, 5 and 7 gene variants identified in schizophrenia and autism spectrum disorder and mouse behavioral studies, *Hum Mol Genet*, 24:2409, 2015. [IF:6.393]

9. Bangel FN, Yamada K, Arai M, Iwayama Y, Balan S, Toyota T, Iwata Y, Suzuki K, Kikuchi M, Hashimoto T, Kanahara N, Mori N, Itokawa M, Stork O, Yoshikawa T*: Genetic analysis of the glyoxalase system in schizophrenia, *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*, 59:105-110, 2015. [IF:3.689]

10. Maekawa M, Yamada K, Toyoshima M, Ohnishi T, Iwayama Y, Shimamoto C, Toyota T, Nozaki Y, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Suzuki K, Miyashita M, Kikuchi M, Kato M, Okada Y, Akamatsu W, Mori N, Owada Y, Itokawa M, Okano H, Yoshikawa T*: Utility of scalp hair follicles as a novel source of biomarker genes for psychiatric illnesses, *Biol Psychiatry*, 78:116-125, 2015. [IF:3.403]

11. Jitoku D, Yamamoto N, Iwayama Y, Toyota T, Miyagi M, Enokida T, Tasaka Y, Umino M, Umino A, Uezato A, Iwata Y, Suzuki K, Kikuchi M, Hashimoto T, Kanahara N, Kurumaji A, Yoshikawa T, Nishikawa T*: Association study of H2AFZ with schizophrenia in a Japanese case-control sample, *J Neural Transm (Vienna)*, 122:915-923, 2015. [IF:2.402]

12. Tang Y, Han S, Asakawa T, Luo Y, Han X, Xiao B, Dong Q, Lu C, Wang L*: Effects of intracerebral hemorrhage on 5-hydroxymethylcytosine modification in mouse brain, *Neuropsychiatr Dis Treat*, 12:617-624, 2016. [IF:1.741]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Asakawa T*, Fang H, Sugiyama K, Nozaki T, Hong Z, Yang Y, Hua F, Ding G, Chao D, Fenoy AJ, Villarreal SJ, Onoe H, Suzuki K, Mori N, Namba H, Xia Y: Animal behavioral assessments in current research of Parkinson's disease, *Neurosci Biobehav Rev*, 65:63-94, 2016. [IF:8.802]
2. 鈴木勝昭: 脳の科学 Up Date 精神疾患と脳画像, *脳* 21, 18:211-214, 2015. [IF:0]
3. 竹林淳和: 摂食障害 拒食症の入院治療プログラムについて 摂食障害の包括的治療と施設間連携, *児童青年精神医学とその近接領域*, 56:562-565, 2015. [IF:0]
4. 竹林淳和: 【摂食障害の治療 update】摂食障害治療支援センター, *精神科*, 28:40-45, 2016. [IF:0]
5. 望月洋介: 【明日からできる摂食障害の診療 II】摂食障害の家族心理教育グループ(家族教室), *精神科臨床サービス*, 15:471-476, 2015. [IF:0]
6. 大隅香苗, 高貝就, 辻井正次: 自閉症スペクトラム障害研究における Vineland 適応行動尺度の有用性について, *子どものこころと脳の発達*, 6:5-15, 2015. [IF:0]

インパクトファクターの小計 [8.802]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 土屋賢治, 服巻智子, 和久田学, 新村千江, 首藤勝行, 大須賀優子, 村田絵美, 坂鏡子, 中原竜治, 浅野良輔, 高貝就, 鈴木勝昭, 森則夫, 黒木俊秀, 片山泰一: GazeFinder (Ka-o-TV) を用いた自閉スペクトラム症の早期診断指標の開発 1歳6ヵ月乳幼児健診における活用に向けて, *脳* 21, 18:203-213, 2015. [IF:0]

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 松崎秀夫, 東田陽博, 森則夫: 予防精神医学の可能性を探る 脂質代謝特性に基づく自閉症予防法開発の試み, *児童青年精神医学とその近接領域*, 56:616-620, 2015. [IF:0]

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森則夫, 杉山登志郎, 和久田智靖 (編著): 『浜松医大流 エビデンスに基づく精神療法実践集』金

芳堂（京都）、ISBN978-4-7653-1635-4、2015.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kurita D, Wakuda T*, Takagai S, Takahashi Y, Iwata Y, Suzuki K, Mori N: Deterioration of clinical features of a patient with autism spectrum disorder after anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis, *Psychiatry Clin Neurosci*, 69:507, 2015. [IF:1.634]

インパクトファクターの小計 [1.634]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成27年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成27年度
(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	17件 (2,390万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1件 (60万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	3件 (4,369万円)
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件 (0万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(6) 財団助成金	1件 (40万円)
(7) 受託研究または共同研究	3件 (561万円)
(8) 奨学寄附金	0件 (0万円)

(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

1. 森 則夫：科学研究費補助金基盤研究（C）「小中学校教員のメンタルヘルスについての現況調査と支援プログラムの構築」平成26～28年度，50万円（総額380万円）
2. 鈴木勝昭：科学研究費補助金基盤研究（B）「自閉症の脳内ニコチン様アセチルコリン受容体：PETによる研究」平成26～28年度，270万円（総額1,240万円）
3. 岩田泰秀：科学研究費補助金基盤研究（B）「統合失調症の遅発性神経炎症仮説の証明と予防法の開発」平成25～27年度，270万円（総額1,420万円）

4. 岩田泰秀：科学研究費補助金挑戦的萌芽「自閉症脳におけるエピジェネティクス解析」平成26～27年度，130万円（総額280万円）
5. 竹林淳和：科学研究費補助金基盤研究（C）「うつ病に対するECTの改善効果：MRSとPETによるエネルギー代謝の検討」平成27～29年度，130万円（総額310万円）
6. 和久田智靖：科学研究費補助金基盤研究（C）「高機能自閉症者の脳内GABA濃度と各種臨床パラメーターとの関連性」平成25～27年度，60万円（総額380万円）
7. 横倉正倫：科学研究費補助金若手研究（B）「神経性無食欲症におけるセロトニン系異常とミクログリア活性化：PETによる研究」平成26～27年度，150万円（総額290万円）
8. 長 由利子：科学研究費補助金挑戦的萌芽「GM-CSFの投与による新しい自閉症モデルの開発」平成27～28年度，140万円（総額280万円）
9. 藤田 梓：科学研究費補助金基盤研究（C）「自閉症の脳内ドーパミン系－PETによる研究」平成25～27年度，90万円（総額390万円）
10. 井上 淳：科学研究費補助金挑戦的萌芽「EMDRによる外傷後ストレス障害の治癒機転に関する脳画像研究」平成27～28年度，130万円（総額240万円）
11. 望月洋介：科学研究費補助金基盤研究（C）「うつ病に対する集団行動活性化療法の効果検討とプログラム開発」平成27～29年度，190万円（総額350万円）
12. 大隅香苗：科学研究費補助金若手研究（B）「自閉症スペクトラム障害児の包括的症候評価と適応行動に基づく介入プログラムの開発」平成27～29年度，170万円（総額290万円）
13. 中原大二郎：科学研究費補助金基盤研究（C）「脳に発現する免疫分子MHCの注意欠如・多動性障害への関与」平成27～29年度，130万円（総額310万円）
14. 豊田志保：科学研究費補助金基盤研究（C）「ハイリスク出生コホート研究に基づく自閉症スペクトラム障害の超早期兆候の特定」平成26～28年度，100万円（総額380万円）
15. 松尾香弥子：科学研究費補助金挑戦的萌芽「幻聴の病態発生に関する脳画像研究」平成27～29年度，100万円（総額280万円）
16. 浅川哲也：科学研究費補助金基盤研究（C）「パーキンソン氏病サルモデルの粗大運動と微細運動に対するDBSのPETを用いた研究」平成27～29年度，150万円（総額370万円）
17. 高橋太郎：科学研究費補助金挑戦的萌芽「ミクログリア活性化に対する光療法の開発－動物モデルを用いた基礎的研究－」平成27～28年度，130万円（総額270万円）

(2) 厚生労働科学研究費

1. 森 則夫（分担）：厚生労働省科学研究費補助金障害者対策総合研究事業(精神障害分野) H26－精神一般－001 「摂食障害の診療対し整備に関する研究」平成26～28年度，60万円（代表：安藤哲也、2,000万円）

(3) 日本医療研究開発機構（AMED）による研究助成

1. 森 則夫（代表）：脳科学研究戦略推進プログラム<課題F>：精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究「自閉症の病態研究と新たな診療技法（診断・予防・治療）の開発」H23～H27年度，3,715万円
2. 森 則夫（分担）：日本医療研究開発機構委託研究開発（「統合医療」に係る医療の質向上・科学的

根拠収集研究事業)「自閉症スペクトラム障害に対する抑肝散の有用性の科学的知見の創出に関する研究」平成26～28年度, 494万円(研究代表者:宮岡剛)

3. 岩田泰秀→亀野陽亮(分担):日本医療研究開発機構再委託研究開発(長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業)「血液バイマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究」H26～28年度, 160万円(研究代表者:橋本謙二(千葉大学))

(6) 財団助成金

1. 望月洋介:公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団研究活動助成金「追体験入院の適切な運用方法構築のための基礎的研究」平成27年度, 40万円

(7) 受託研究または共同研究

1. 摂食障害治療支援センター設置運営事業受託費 平成27年度 430万円
2. 森 則夫:産学連携研究費(製造販売後調査)ノバルティスファーマ(株)「クロザリル錠 25mg・100mg 特定使用成績調査」9万円
3. 和久田智靖(代表):産学連携研究費(共同研究)大日本住友製薬(株)「自閉症診断マーカーに関する探索研究」122万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	3件
(2) シンポジウム発表数	0件	2件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	8件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

1. 横倉正倫:“A comparison study of microglial activation in aging and dementia between first- and second-generation TSPO PET tracers: [¹¹C]PK11195 and [¹¹C]DPA713.”, Neuroscience2015, 平成27年10月17～23日、シカゴ
2. 横倉正倫:“*In vivo* PET study of microglial activation in aging and dementia using 1st- and 2nd-generation TSPO PET tracers: [¹¹C] (R)PK11195 and [¹¹C]DPA713.”, The 16th conference of Peace

through Mind / Brain Science, 平成 28 年 2 月 23～25 日、浜松市

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 竹林淳和：特別講演『摂食障害の包括的治療』、東海精神神経学会、平成 28 年 2 月 14 日、浜松市
2. 井上淳：特別講演『トラウマの心理療法』、東海精神神経学会、平成 28 年 2 月 14 日、浜松市
3. 井上淳：教育講演『日常臨床で用いる認知行動療法の実践』、日本精神神経科診療所協会学術研究会、平成 27 年 6 月 20 日、浜松市

3) シンポジウム発表

1. 和久田智靖：神経発達障害仮説に基づく統合失調症動物モデルからみた予防、日本精神保健・予防学会、平成 27 年 12 月、仙台市
2. 栗田大輔：摂食障害の診療体制とネットワーク 摂食障害治療支援センターの役割 精神科医もできる！神経性やせ症の身体治療、日本精神神経学会学術総会、平成 27 年 6 月 4 日、大阪

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 森 則夫：日本脳科学会 理事長
2. 森 則夫：日本精神科救急学会 理事
3. 森 則夫：日本森田療法学会 理事
4. 森 則夫：日本神経化学会 理事
5. 鈴木勝昭：日本生物学的精神医学会 評議員
6. 鈴木勝昭：日本児童青年精神医学会 代議員
7. 岩田泰秀：日本生物学的精神医学会 評議員
8. 竹林淳和：日本生物学的精神医学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2 件	2 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

1. 森 則夫、Journal of Brain Science（日本脳科学会）、編集長、CiNii 登録 [IF : 0]
2. 鈴木勝昭、子どものこころと脳の発達（連合小児発達学研究科）、編集委員長、医中誌登録 [IF : 0]

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 森 則夫、Molecular Autism (Bio Med Central)、副編集長、PubMed 登録 [IF : 5.486]
2. 鈴木勝昭、PLoS One (Public Library of Science)、Academic Editor、PubMed 登録 [IF : 3.534]

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Biomarker in Medicine (UK), 1 回
2. PLoS One (USA), 1 回
3. Translational Psychiatry (USA), 1 回
4. European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience (Germany), 1 回

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	7 件
(3) 学内共同研究	4 件

(2) 国内共同研究

1. 理化学研究所、大阪大学、金沢大学、中京大学、福井大学、弘前大学との子どものころに関する共同研究
 - ① 自閉症の臨床遺伝
 - ② 脳画像
 - ③ 疫学研究 他
2. 発達障害の遺伝学的研究、国立成育医療研究センター 周産期病態研究部 秦健一郎先生、共同研究
3. PET による発達障害のセロトニン仮説の証明、浜松ホトニクス、機器・施設利用による共同研究
4. 発達障害の血清学的研究、千葉大学 橋本謙二先生、共同研究
5. 自閉症診断補助装置の開発、静岡大学工学部システム工学科 海老澤嘉伸教授および大阪大学大学院 片山泰一教授、共同研究

(3) 学内共同研究

1. メディカルフォトンクス研究センター生体機能イメージング教室 尾内康臣教授との PET 研究
2. 解剖学講座神経機能分野 佐藤康二教授との自閉症モデル動物に関する研究
3. メディカルフォトンクス研究センター光ゲノム医学研究室 簗島伸生教授との自閉症のチップ解析研究
4. メディカルフォトンクス研究センター分子病態イメージング研究室 間賀田泰寛教授・生体機能イメージング教室 尾内康臣教授・解剖学講座 解剖学神経機能分野 佐藤康二教授との予防医学研究

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	2 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 脳画像研究：PET を用いた研究により自閉症を中心とした発達障害の病態解明に貢献
2. 社会心理学的研究：子どもの発達に沿った課題とその対策を発信

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. わが国の若年女性に急激に増加し、低年齢化・重症化が進んでいる神経性無食欲症を安全に治療するための「身体治療マニュアル」を刊行し、このマニュアルと心理療法プログラム、デイケアを含む集約的治療プログラムを開発した。この取り組みは厚生労働省に認められ、同省が整備中の「摂食障害治療支援センター」事業において、全国 5 か所に設置されるセンターの 1 つとして本学附属病院精神科神経科が採択される見込みである。
2. 当講座とメディカルフォトンクス研究センター、浜松市、浜松ホトニクス(株)による、「こころの予防医学研究センターによる教育研究事業」が特別経費として認められ、精神神経疾患（統合失調症、認知症、うつ病、摂食障害）の予防法開発にむけ研究活動を開始した。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

上記 13 の取り組みは、わが国は勿論、国際的にみても例がなく、きわめて独創的であり、チャレンジングである。

15 新聞、雑誌等による報道

1. イブアイ「摂食障害治療支援センター」開設、静岡放送、2015 年 10 月 20 日
2. ニュース放映 SBS 静岡放送 2015 年 10 月 21 日
3. 掲載『摂食障害患者に対応 浜松医大に支援センター 2 1 日開設』 静岡新聞 2015 年 10 月 21 日
4. 県内版掲載『県、摂食障害治療へ拠点』 中日新聞 2015 年 10 月 21 日
5. 地域版掲載『浜松医大病院 摂食障害治療の拠点施設』 読売新聞 2015 年 10 月 21 日
6. 生活欄掲載『摂食障害 潜在患者どう支援』 朝日新聞 2015 年 11 月 10 日
7. 『おはよう日本』内 特集『摂食障害』 NHK テレビ 2015 年 12 月 2 日
8. Every しずおかニュース特集『摂食障害』 静岡第一テレビ 2015 年 12 月 15 日
9. 掲載『摂食障害患者の家族支援 静岡で教室』 静岡新聞 2016 年 2 月 21 日
10. 摂食障害、チームで診療 浜松医大支援センター、静岡新聞、2016 年 2 月 27 日